

## メルボルン世界大会出席報告

国際ロータリー世界大会 メルボルン大会が、テニスの全豪大会が行われる1万人以上10,000人以上は収容できるアリーナで午前の部、午後の部2回に分けて超満員で開催されました。家内と2人でオリンピックを見ているようだねと言いながら楽しみました。百数十カ国の国旗のパレードでそれぞれの国の名前が呼ばれると歓声が起き、フィリピン、台湾などからもたくさんの人が来ていて、国の名前を呼ばれるとさらに大きな歓声が響き渡りました。ウクライナの時も大きな拍手が湧きました。ロータリーインターナショナルは、クラブと地区の集合体で構成される統治システムと理解していましたが、世界大会の場面になると、各国のナショナリズムが前面に出てくるのは大変興味深いものでした。

メルボルンの地元の偉い人や国際ロータリーの貢献者などが次々と登壇しましたが、印象に残ったのは、5人のスピーカーの内3人が女性だった事。

ジェニファーRI会長はロータリアンの女性比率が30%を超えた事を強調。その他、温暖化、LG BT、貧困などを熱心に話されました。

その中で私の心に残った言葉は

「We are the voice of civil society.」です。

会場では日本語があちらこちらから聞こえてくるので、日本からもたくさんのロータリアンが来ているらしいのですが、特に直接接触することもなく、クラブの活動しかしていない私のようなロータリアンにとっては、あまり他の国のロータリアンと親しく接する機会があるとか、日本の他のロータリークラブの人と接触する機会はありませんでした。

メインイベント終了後、第2510地区主催の北海道ナイトに出席。やっと何人かの馴染みの顔を見て一安心。異国の地の飲み会は格別です。

「世界大会は、自分のクラブの仲間を誘ってRotaryを話し合うファイアサイドミーティングの旅行版として考えたら楽しいのではないだろうか。さらに言えば、国際大会よりも日本の全国大会があったほうが面白いのかもしれない。」などと思ったりもしました。

今回メルボルンの世界大会に出席し、ロータリアンとしてのエネルギーを実感しました。北海道ナイトでは第2510地区から参加者の皆さん60名以上で楽しい時間を過ごしました。

そして、25年ぶりに家族ぐるみで付き合っていた古い友人とシドニーで再会できました。

さらに、ミュージカル「Juliet」を観劇、ワイナリーツアーでワインを飲みすぎ、非日常を満喫しました。

来年はシンガポールだそうです。一緒に行きますか？

札幌西RC 中村 真規